

令和5年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	保護者や地域・大学の人材を活用した新しい子育て支援のカリキュラム開発
事業実施代表者名	村 岡 舞 附属函館幼稚園 副園長
実施附属学校園名	附属函館幼稚園
事業内容 (実施内容について、500～1,000字以内で記述)	<p>新しい子育て支援のカリキュラム開発では、保護者や地域・大学の人材を積極的に活用することが重要であり、この取り組みは、従来の子育て支援の枠組みを超えて、より包括的で効果的な支援を提供することを目指している。</p> <p>まず、保護者の参加を促進するために、保護者のニーズや関心に合わせたカリキュラムを開発する。保護者の声を聞き入れ、子育てに関わる実践やスキルを提供することで、保護者が自信をもって子育てに取り組めるよう支援する。また、保護者同士の交流や情報共有の場を設けることで、コミュニティの結束を強化し、支援体制を構築する。</p> <p>地域の人材を活用することで、地域資源を最大限に活かした子育て支援が可能となる。地域の専門家やボランティア、地域団体と連携し、地域独自のニーズに合わせたプログラムを開発していく。地域の特性や文化に配慮した支援が、子育て家庭にとってより身近で効果的なものとする。</p> <p>さらに、大学の人材も活用することで、専門的な知識や最新の研究成果を活かした支援が可能となる。大学の教員や学生が、子育て支援の実践に参加し、理論と実践を結びつけることで、より高度なプログラムを提供できると考える。また、大学と地域の連携により、地域課題に対する学際的なアプローチが可能となり、地域社会全体の発展に貢献することができる。</p> <p>以上のように、保護者や地域・大学の人材を活用した新しい子育て支援のカリキュラム開発は、包括的で効果的な支援を提供するための重要な取り組みであり、それぞれが協力し合い、子育て支援の質の向上と地域社会の発展に貢献していくことが可能となる。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>成果として、保護者の自信と能力の向上があげられる。保護者が参加し、実践的な情報やスキルを習得することで、子育てに対する自信と能力が向上したと考える。</p> <p>また、地域コミュニティの強化が可能となった。地域の人材や資源を活用することで、地域コミュニティの結束が強化され、子育て支援のネットワークが構築された。</p> <p>大学と連携することで、専門知識の活用も行うことができた。大学の人が参加することで、専門的な知識や最新の研究成果が活用され、より高度な支援が提供されていた。さらに、大学と地域の連携により、学際的なアプローチが可能となり、保護者の課題に対する解決策が提供されていた。</p> <p>課題としては、どんどん複雑化する保護者の多様性に対するアプローチが必要となることである。そのために連絡アクセスの向上やニーズに合った内容の提供が必要になってくる。また、職員が少人数のため持続可能性の確保が難しいことがあげられる。資金や人的リソースの確保が必要であり、地域や大学との連携を強化していく必要がある。</p>

<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>事業を向上させるために、さらに保護者のニーズや背景に合わせた内容を行い、より幅広く呼びかけていくことが必要である。そのために、ボランティアや大学、地域の人材を活用することで、費用を抑えつつ持続可能な支援体制を構築していく必要がある。事業内容も効果を定期的に評価し、参加者や関係者からのフィードバックも収集し、内容の改善に活かしていきたいと考える。効果を定期的に集約し、適切な評価体制を構築して継続的な改善を行っていくことも必要である。また、保護者、地域、大学などのコミュニティとの連携が円滑に行われるための架け橋となっていく必要がある。さらにイベントやワークショップなどを開催し直接交流し、理解を深めるために定期的に開催していくことも重要であると考えます。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>HPで公開 園児募集ポスターで紹介 園児募集案内で紹介 体験入園時に説明</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。